

定住自立圏  
中心市宣言書

平成21年9月1日  
熊本県山鹿市



## 山鹿市定住自立圏中心市宣言

菊池川流域に広がる豊かな田園地帯を持つ山鹿市は、熊本県の北部に位置し、北は福岡県や大分県、東は菊池市、南は植木町や玉東町、西は和水町にそれぞれ境を接している。

古くは、江戸時代の参勤交代の宿場町として豊前街道沿いを中心に栄え、今日では本市を縦断する国道3号と東西に延びる国道325号、443号が結節する要衝にある。

本市は、豊富な湯量を誇るやまが温泉五湯郷や溪谷、棚田などの豊かな自然と、菊池川流域の装飾古墳群や古代の山城・鞠智城、さらには山鹿灯籠まつりや江戸時代の芝居小屋の姿を今に伝える八千代座など、歴史・伝統に育まれた数多くの財産を有している。

平成17年1月15日に、旧山鹿市、旧鹿北町、旧菊鹿町、旧鹿本町及び旧鹿央町が合併し、現在の山鹿市が誕生したが、もともとの1市4町は、歴史・文化、社会、経済及び住民生活において密接な関係を有しており、行政においても広域的な住民サービスの提供に取り組んできたところである。

合併前の1市4町のうち、旧山鹿市においては、核となる商業施設が中心地域に存在するとともに、市役所の本庁を始め、県地域振興局、警察署、税務署及び裁判所などの行政・司法機関、さらには中核の医療機関である市立病院や老人福祉センターなどの福祉施設、高等学校や専修学校などの教育機関等が立地するなど、生活に必要な都市機能について一定の集積があるところである。

また、合併前の旧4町は、豊かな田園農山村風景が続き自然と産業が調和し、水稻や畜産、施設園芸を中心とした第一次産業を基盤として発展してきた地域である。

この旧4町全てが旧山鹿市に対して通勤通学割合が10%を超えていたことから、合併によって、結果として自立した一つの圏域が現在の山鹿市に形成されたところである。

合併後、これまでの山鹿市の状況を概観してみると、厳しい財政状況の中、行政機能について支所機能の一部を本庁に集約するなど効率化を図る一方で、人口の減少や少子・高齢化の進行、中心市街地の空洞化、さらには中心地域と周辺地域間の格差の

発生といった問題が生じている。

地域で安心して暮らしていくためには、日常生活圏内で一次的な医療・介護が受けられる体制が整っていること、安心して子育てができる環境があること、それらを補うものとして地域のコミュニティ活動が存在していることが必要である。

そのためには、中核となる医療機能や各種の生活関連サービスの提供機能など、生活に必要な都市機能を充実・確保していく必要がある。

また、周辺地域においても、備えるべき機能について充実・確保しながら、当該地域の中心集落の機能強化を図るなど、地域のコミュニティ活動についてもしっかりと支えていく必要がある。

さらに中心地域の都市機能については、同地域の住民に限らず、周辺地域の住民にとっても利用しやすい環境を整備していく必要があり、そのためには圏域内の結びつきやネットワークを強化していくことが肝要である。

このような認識のもと、山鹿市は、旧山鹿市を中心地域とし、旧4町を周辺地域とした「山鹿市定住自立圏」の構築を掲げ、圏域全体の総合的なマネジメントを行い、市民に対して積極的に各種サービスを提供していくこととする。

これにより中心地域と周辺地域が的確に役割分担しながら、中心地域の機能と周辺地域の機能を有機的に連携させ、「定住」のための暮らしに必要な諸機能を総体として確保することで、圏域のどこに住んでも一体感のあるまちづくりを進め、「山鹿に住みたい」、「山鹿に住み続けたい」という人々の思いに応えることができる魅力あふれる地域の形成を目指し、全力を挙げて取り組むことをここに宣言する。

平成21年9月1日

山鹿市長 中嶋 憲正

## 1 旧山鹿市における都市機能の集積状況

公共施設等による各種サービス機能、中核的な医療機能、大規模商業・娯楽機能その他の行政及び民間分野に係る都市機能の集積状況は概ね以下のとおりである。

分野	区分	機関又は施設の名称
行政等	国	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熊本地方方法務局山鹿支局</li> <li>・山鹿区検察庁</li> <li>・山鹿税務署</li> <li>・九州農政局山鹿統計・情報センター</li> <li>・国土交通省菊池川河川事務所</li> <li>・国土交通省熊本河川国道事務所山鹿維持出張所</li> <li>・自衛隊熊本地方協力本部山鹿地域事務所</li> <li>・熊本地方裁判所山鹿支部</li> <li>・熊本家庭裁判所山鹿支部</li> </ul>
	県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熊本県鹿本地域振興局</li> <li>・熊本県鹿本福祉事務所</li> <li>・熊本県山鹿保健所</li> <li>・熊本県鹿本教育事務所</li> <li>・熊本県立教育センター</li> <li>・山鹿警察署</li> </ul>
医療	第2次救急医療機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山鹿市立病院</li> <li>・保利病院</li> <li>・山鹿中央病院</li> </ul>
福祉	児童福祉施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山鹿子育て支援センター</li> <li>・おさか童夢</li> <li>・病後児保育室あすなろ</li> </ul>
	高齢者福祉施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養護老人ホーム福寿荘</li> <li>・山鹿シルバー人材センター</li> </ul>
	障害者福祉施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体障害者療護施設愛隣館</li> <li>・知的障害者授産施設もくせい学園</li> </ul>

	介護保険施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チブサン荘</li> <li>・愛隣の家</li> <li>・希望の園</li> <li>・山鹿リハビリセンター</li> <li>・山鹿中央病院</li> <li>・山鹿温泉リハビリテーション病院</li> </ul>
教育	高等学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熊本県立鹿本高校</li> <li>・城北高校</li> </ul>
	専修・各種学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鹿本郡市医師会附属准看護高等専修学校</li> <li>・松浦服装学院</li> </ul>
商業・娯楽	大型店 (売場面積：1,000 m <sup>2</sup> 以上)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニューダイエー</li> <li>・ゆめマート山鹿店</li> <li>・プラザファイブ</li> <li>・ハイパーモールメルクス山鹿店</li> <li>・ゆめマート東山鹿店</li> <li>・グッデイ山鹿店</li> <li>・スーパーミカエル・BOOKS あんとく山鹿店</li> <li>・ダイレックス山鹿店</li> <li>・九州テックランド山鹿店</li> <li>・ケーズデンキ山鹿店</li> </ul>
文化・スポーツ	文化施設・民芸館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八千代座</li> <li>・山鹿灯籠民芸館</li> </ul>
	博物館等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山鹿市立博物館</li> <li>・山鹿市出土文化財管理センター</li> </ul>
	スポーツ施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山鹿市民スポーツセンター</li> <li>・カルチャースポーツセンター（総合体育館）</li> <li>・山鹿市民球場</li> <li>・山鹿市民武道館</li> <li>・山鹿市民プール</li> </ul>
交通	バスセンター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山鹿バスセンター</li> </ul>

(参考) 旧1市4町における商工業の立地状況

① 製造業

旧市町村名	事業所数 (社)	従業者数 (人)	年間製造品出荷額 (万円)
旧山鹿市	42	1,579	4,104,814
旧鹿北町	14	317	508,783
旧菊鹿町	10	136	114,023
旧鹿本町	25	797	990,563
旧鹿央町	9	209	307,281
総 数	100	3,038	6,025,464

出典：平成16年工業統計調査

② 卸売業

旧市町村名	事業所数 (社)	従業者数 (人)	年間商品販売額 (万円)
旧山鹿市	511	2,971	49,565
旧鹿北町	1	2	-
旧菊鹿町	-	-	-
旧鹿本町	18	64	809
旧鹿央町	4	36	3,110
総 数	534	3,073	53,484

出典：平成14年商業統計調査

③ 小売業

旧市町村名	事業所数 (社)	従業者数 (人)	年間商品販売額 (万円)
旧山鹿市	436	2,509	35,699
旧鹿北町	55	285	-
旧菊鹿町	56	154	1,295
旧鹿本町	126	662	9,226
旧鹿央町	19	51	608
総 数	692	3,661	46,828

出典：平成14年商業統計調査

## 2 旧1市4町の住民による都市機能の利用状況

次のとおり、旧4町の住民も旧山鹿市に集積された都市機能を利用しており、旧山鹿市の都市機能は旧4町にも及んでいることが見て取れる。

### (1) 市立病院の利用状況（平成20年度）

	利用者総数 (人)	旧山鹿市		旧4町		その他市町村	
		利用者 (人)	割合	利用者 (人)	割合	利用者 (人)	割合
入院	1,959	909	46.4%	727	37.1%	323	16.5%
外来	15,393	7,635	49.6%	5,100	33.1%	2,658	17.3%
病院の概要	病床数：一般病床 197 床、感染症病床 4 床 合計 201 床 診療科目：内科（一般内科、呼吸器科、循環器科、内分泌・代謝科、消化器科）、小児科、外科、整形外科、リハビリテーション科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、人間ドック 医療機関指定：開放型病院、救急告示病院、病院群輪番制病院、災害拠点病院、第二類感染症指定医療機関、肺がん、乳がん、胃がん、大腸がん、前立腺がん精密検査機関、臨床研修指定病院（協力型）						

出典：山鹿市立病院事務部管理課調べ

### (2) 購買動向（旧山鹿市の商業施設への旧4町住民の購買状況）

旧4町名	食料品	日用 雑貨品	衣料品	身回品 (靴・履物 等)	文化品 (電化製品 等)	贈答品
旧鹿北町	37.9%	57.2%	81.9%	81.0%	73.6%	63.1%
旧菊鹿町	18.7%	33.6%	41.1%	39.6%	41.7%	32.5%
旧鹿本町	13.6%	24.7%	40.1%	23.6%	30.9%	21.3%
旧鹿央町	54.1%	65.6%	49.8%	50.0%	55.4%	56.1%

出典：平成15年熊本県消費動向調査

(3) 薄尾斎場の利用状況（平成20年度）

利用者総数 (人)	旧山鹿市		旧4町		その他市町村	
	利用者(人)	割合	利用者(人)	割合	利用者(人)	割合
733	380	51.8%	326	44.5%	27	3.7%

出典：山鹿市環境部環境課調べ

(4) 山鹿市鹿本図書館の利用状況（平成20年度）

	総数(人)	旧山鹿市		旧4町		その他市町村	
		人数(人)	割合	人数(人)	割合	人数(人)	割合
登録者	9,629	4,488	46.6%	4,893	50.8%	248	2.6%
利用者	42,981	22,822	53.1%	19,514	45.4%	645	1.5%

出典：山鹿市教育部社会教育課調べ

※山鹿市鹿本図書館は、旧鹿本町に住所を有する施設であるが、現在の山鹿市の中核的な図書館であり、旧1市4町の住民の利用状況を通して、旧市町間の密接な関係性を見て取ることができることから掲載している。

### 3 展開しようとする取組

圏域全体の活性化を通じて人口定住を図るという観点から、中心地域と周辺地域が役割分担しながら連携して展開しようとする主な取組は次のとおりである。

#### (1) 生活機能の強化に関する取組

##### ① 医療

- 圏域内における保健、福祉、医療間のネットワークを構築するとともに、開放型病院として市立病院を位置付け、同病院と地域医療機関との連携強化に取り組む。
- 誰もが24時間、365日適切な救急医療を安心して受けられる医療体制や小児医療に係る救急・夜間の診療体制の充実に取り組む。

##### ② 福祉

- 乳幼児期から大人になるまでの成長を見通し、子ども達がその時々に必要な支援を受けられ、また親が親としての喜びを感じながら子育てができるよう、「山鹿市乳幼児保育環境整備方針」等に基づき中心地域と周辺地域が連携しながら必要な機能や施設を整備するなど、総合的な子育て支援体制の整備に取り組む。
- 高齢者が住み慣れた地域で介護サービスや福祉サービス等の包括的ケアを受けられるよう、地域と関係機関との連携を推進するとともに、要支援・要介護状態ではない高齢者の介護予防について、地域や家庭と連携を密にした支援体制の充実に取り組む。

##### ③ 産業振興

- 消費者ニーズに合致し、市場での評価も高い売れる農産物・農産加工品づくりを進めるため、重点農産物等の選定・認証を行い、新たな販路開拓戦略を設定し、「やまがブランド」の確立に取り組む。
- こうした農産物等の新たな販路開拓を通じて、地産地消への取組として地元の旅館やホテルに地元農産物等を食材として積極的に提供するとともに、継続的に安定供給ができる仕組づくりを検討するなど、観光と農業の連携による産業振興策の構築について取り組む。
- 八千代座を中心とする豊前街道沿いの歴史的街並みの魅力と農産物や棚田などの地域資源を活用した農山村体験交流などを有機的に結びつけた観光地づくりに取り

組む。

- 企業情報の収集や市内工場用地の資料提供に努めるなど、積極的な企業誘致活動を行う。また、新たな工業団地の整備を具体化するため、各関係機関との協議・調整に取り組む。

## (2) 結びつきやネットワークの強化に関する取組

### ① 地域公共交通

- 人口減少や高齢化の進行により、自ら生活交通の確保ができない人や家族で送迎ができない人などが便利で快適に利用できるよう、現在、一部の地域で「山鹿市あいのりタクシー」の運行を開始しているが、今後は公共交通の空白地域の解消を含め、圏域全体の地域公共交通サービスの構築について取り組む。

### ② デジタル・ディバイド(注1)の解消に向けたICT(注2)インフラ整備

- ブロードバンド(注3)の整備、携帯電話の通話エリアの拡大など、情報通信基盤の整備・充実を図ることで、地域情報格差の解消に取り組む。

## (3) 圏域マネジメント能力の強化に関する取組

### ① 人材の育成

- 職員研修のさらなる充実や国・県等との人事交流を通じた人材の育成に取り組む。

### ② 外部からの民間人材の確保

- 「山鹿市と崇城大学との連携協力に関する協定」に基づき、同大学との人的・知的資源の交流・活用に係る連携協力を一層推進するなど、外部からの人材の活用を図る。また、こうした外部からの人材の活用を通して、地域の人材育成に取り組む。

---

(注1) ……インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者の間に生じる格差

(注2) ……Information & Communications Technology の略。情報通信技術

(注3) ……高速・超高速通信を可能とする回線

以上、「平成16、17、18年情報通信に関する現状報告（総務省）」より

#### 4 山鹿市に対する通勤通学割合が0.1以上の市町村

山鹿市に対して従業又は通学する就業者数及び通学者数を、常住する就業者数及び通学者数で除して得た数値（以下「通勤通学割合」という。）が0.1以上である市町村は、次のとおりである。

市町村名	人口（人）	山鹿市への通勤通学割合
和水町	11,900	15.1%

出典：平成17年国勢調査

※和水町は、平成18年3月1日に菊水町と三加和町が合併して誕生した町。よって、人口については、旧町の人口の合計である。

なお、旧4町から旧山鹿市への通勤通学割合については、次のとおりである。

旧市町村名	人口（人）	旧山鹿市への通勤通学割合
旧山鹿市	32,944	—
旧鹿北町	5,290	24.5%
旧菊鹿町	7,524	17.7%
旧鹿本町	8,522	17.9%
旧鹿央町	5,211	24.4%

出典：平成12年国勢調査